

第19 回日本早期認知症学会理事会議事録

- ・日時：2017年3月19日（金）18：00～21：00
- ・場所：JMSアステールプラザ広島市国際青年会館 4F大会議室B
- ・場所：〒730-0812 広島県広島市加古町4番17号 Tel：082-247-8700
- ・出席者：理事長 湯浅龍彦
副理事長 大島扶美 小林清市
理事 浅川 毅 和泉唯信 奥山恵理子 工藤千秋 小山幸代 重森健太
篠原豊明 山崎雅勇
名誉理事 志村孚城
- ・欠席者：理事 石垣泰則 犬塚貢 井上剛伸 大城昌平 大城一 大杉敦彦 大野ゆう子
榊原隆次、 酒谷薫 鈴木みずえ 瀧山嘉久 中村博彦 宮嶋裕明
監事 坂井光蔵 廣川知志
名誉理事 金山重明
顧問 新井平伊
- ・陪席者：高橋 薫（コーラルクリニック）（五十音順、敬称略）
- ・委任状：12通

議事

- ・理事会出席者、委任状の確認（工藤千秋統括委員長）
理事会構成員26名（理事24名，監事2名）中、出席者11名・委任状12名であることから、本学会会則「全役員の2／3以上をもって成立する」（第6条第1項）に則り理事会は成立することが宣言された。
 - ・議長に湯浅理事長が選出された。
 - ・書記を小山幸代理事、議事録署名として小林清市副理事長、篠原豊明理事が選出された。
1. 理事長より、「日本早期認知症学会の目標と方法」、「早期認知症を冠した学会に相応しい活動」、「理事会の機動力アップ」、「代議員制度の拡充と活動の場の拡大」、「名誉会員の推薦」、「未来型のHPに改組する必要性」について、所信が述べられた。
志村名誉理事より、会則、規約等に則り、透明に運営して下さいとの意見があった。

2. 委員会報告

(1) 統括委員会報告

工藤委員長より、配布資料に基づき下記について報告があった。

- ① 専門員会、監査委員会の課題について（資料 11 頁）
- ② 事務局の契約の確認の必要性について
- ③ 2016 年秋以降のメール理事会の審議結果について（資料 3 頁）

理事会の委任状の宛先が理事長になっていた件に関して、「事務局に前理事長の時から
の慣例であった旨を確認した」について、志村名誉理事より「そういう時期もあったが終盤
は改善していた」と発言があった。

- ④ 監事からの指摘事項について（資料 4～8 頁 + 追加資料 1 枚）

「代議員会の重要性と活性化」に関して下記のような意見交換がなされた。

- ・代議員が活躍できるように学会の基盤整備を急ぐべきである。
- ・時代の流れに合わせて小回りよく決断、決定していける学会運営ができるように、
会則や運用規定等を定めていく必要がある。
- ・地方会ができるようになるのが理想、力のある代議員に活躍してもらおうとよいの
ではないか。
- ・代議員を会員による選挙によって選出することはもっともだが、本会を育てていくた
めにも必要な人材を理事会が推挙することも重要なのではないか。

- ⑤ 金山名誉理事所属の法人からの寄付の受領について報告があった。（資料 9・10 頁）

- ⑥ 東日本大震災・熊本地震義援金 2 件について寄付が終了した件について報告があった。
（資料 9・10 頁）

(2) 専門各委員会からの報告

① 総務委員会

- ・篠原委員長より、代議員の定年制検討、財務基盤の強化のために各大会への資金援助をす
る。黒字になった場合は学会への返還や寄付のルール化、学会ピンバッチの導入と配布方
法、理事独自の特別会費、法人会員の協力依頼、について検討が必要である。
- ・財務担当の和泉理事より、他学会のポイント付与を可能にするなどして参加者・会員増
をはかりたい旨の報告があった。

② 研修・代議員担当委員会

犬塚委員長欠席のため、工藤統括委員長より、学会として研修会開催をした方がよいとい
う見解があったことが報告された。

③ 選挙管理委員会

山崎委員長より、本年度は次期大会までに理事選挙、理事長選挙を実施すること、代議員

の任期は6年のため、3年目なので今回は欠員の補充となる旨報告があった。

3. 今後の大会、研修会の準備状況

(1) 第18回東京

①石垣大会長の代理として高橋薫氏より、詳細な報告があった。

(当日資料) 第18回日本早期認知症学会学術大会・第22回日本神経精神医学会

テーマ：認知症患者の社会参加をサポートする地域でいかに取り組むかを考えよう～

報告後に、フランスベッド(介護支援ベッド)を協賛にしてはどうか、春季ワークショップに引き続きマツダ自動車にも声をかけてはどうか、等の意見があった。

(2) 第19回松江

重森大会長より、資料に基づき進捗状況について報告があった

(当日資料) 第19回日本早期認知症学会 in 松江

(3) 第1回春季ワークショップ(広島大会)

和泉大会長より、配布資料12~14頁のに基づき、詳細な説明があった。

第19-2 回日本早期認知症学会理事会議事録

・日時：2017年3月20日(月) 7:30～9:30

・場所：リバーガーデンレストラン

・場所：〒730-0812 広島県広島市加古町4番17号 Tel: 082-243-8491

・出席者：理事長 湯浅龍彦

副理事長 大島扶美 小林清市

理事 浅川毅 和泉唯信 奥山恵理子 工藤千秋 小山幸代 重森健太 篠原豊明

鈴木みずえ 宮嶋裕明 山崎雅勇

名誉理事 志村孚城

・欠席者：理事 石垣泰則 犬塚貢 井上剛伸 大城昌平 大城一 大杉敦彦 大野ゆう子

榊原隆次 酒谷薫 瀧山嘉久 中村博彦

監事 坂井光蔵 廣川知志

名誉理事 金山重明

顧問 新井平伊

(五十音順、敬称略)

・委任状 10通

議事

I. 事会出席者、委任状の確認（工藤千秋統括委員長）

理事会構成員26名（理事24名，監事2名）中、出席者13名・委任状10名であることから、本学会会則「全役員の2／3以上をもって成立する」（第6条第1項）に則り理事会は成立することが宣言された。

II・議長は湯浅理事長が継続を確認した。

- ・書記を小山、議事録署名として小林清市副理事長、篠原豊明理事は継続とした。

III. 審議事項

1. 代議員制度の体制強化について

1)新代議員の推薦結果（今回）と今後のタイムテーブル

- ・理事長より、学会を活性化するために、代議員定数は設けず、監事から提案があった概ね会員総数の30%を目途とする。また総務会からの報告があったように代議員の定年は設けずに、概ね80歳とし、本人の意思を確認して継続してはどうか、代議員により地方会と或いは研修会を組織する、代議員の選出は会員や理事から常時推薦してもらい理事会で選出して、会員が投票するなど、新しい代議員選抜制度の検討が必要との提案がなされた。
- ・工藤統括委員長より、配布資料20頁に基づき、定員補充ため今回理事より推薦された代議員候補者について結果報告、説明があった（候補者数20名）。
- ・審議の結果、現代議員13名の補充については、現会則に基づき会員が選出する方法で実施する、会員全員を被非選挙人とする事及び理事推薦者を明示した被選挙人リストを作成し電子投票することに決定した（但し、今回推薦のあった候補総数20名のうち、未入会の方と、推薦者から次回回しでよいとされた方を次点扱いにする旨の案が論議され、決定した）。また、本選挙は選挙管理委員会、総務委員会、統括委員会が協力して実施することが確認された。
- ・理事長提案による新代議員制度については、次回理事会で審議することになった。

2)会則に関わる問題点整理と今後のタイムテーブルについて

- ・工藤統括委員長より、配布資料16～20頁に基づき、現行の会則の問題点整理（会則の改正点）について説明があった。
- ・総務規約担当の瀧山理事に検討を依頼し、次回理事会で審議することとなった。

3) メール理事会のあり方

- ・メール理事会にかける時に1週間程度意見交換期間を設け、その後に理事会審議にもっていくこと、理事からの全回答結果を監事が確認し公表することを決定した。

2. 公認会計士の必要性和候補者の決定について

- ・工藤統括委員長より、配布資料 21~34 頁に基づき説明があり、本学会公認会計士として候補者清水峰生氏を承認し、本年度分からの学会会計チェックにあたることを確認した。
- ・今後、本学会を任意団体に留めず、一般社団法人、公益社団法人等に発展させたいとの意見があった（志村名誉理事）。

3. 補正予算の必要性和財務に関する問題点について

- ・工藤統括委員長より、配布資料 35 頁に基づき 2016 年度予算の確認、財務基盤を強化による学会活動の促進、寄付の適正な運用、学術大会・研修会への準備金等について説明があった。
- ・理事長から、秋の学術大会、ワークショップ（地方会）、会員が実施する共同研究対して助成する意義が説明され了承された。助成額に関しては、現時点で規約がないので、今後規約を整える段階で鋭意決定するが、目安としては、秋季学術大会に（20 万円）、共同研究基金（20 万円）、春季ワークショップ（各地方会）（1 件当たり 5 万円で、最高 20 万円以内）、応募方法など決めて行く必要がある。但し、その年にワークショップが複数の応募があった場合には、総額 20 万円以内で均等割りする方針が示された。春季ワークショップの在り方に関しては今回の決算をみて妥当性を検討する。
- ・和泉理事より、春季ワークショップ（14 頁参考）の決算が確定した後、共催した認知症疾患センターと当学会が折半する提案があった。
- ・その他、マイナス予算を改善すること、余剰金を収入 200 万円の半分 100 万円程度にすること、積立金として活用する案、団体会員を一口 30,000 円とし収入アップする案など意見があり、総務委員会（財務担当理事）が次回理事会に向けて検討し提案することとなった。また、財政改善策が決定するまでに寄付を任意で依頼していくことが確認された。

4. 今後の春季ワークショップについて

- ・次年度 春季ワークショップの開催候補地として可能かどうか、各理事が検討して申し出るようになった。また、会員の継続のためにも研修会の意味もあるなどの意見があり、今後、秋の大会の開催地で 2~3 年後を目途に春季ワークショップを開催するなど、ルール化

などの運用規則等の検討が必要であることを確認した。

5. その他

- ・その他、委員会単位ではスカイプ、SCOPIAなどで議論をすることなどの意見がでた。
- ・当学会における認知症高齢者の自動車運転に関する専門医のあり方について、当学会の社会的貢献のひとつとして、この課題にかかわっていったらよいのではないか。
- ・学会バッジとエンブレム作成について承認し、今後バッジ作成は篠原理事を中心に、エンブレム作成は工藤統括委員長を中心にコンペティションを行い決定することとなった。
- ・事務局との契約内容については今後検討していくこととなった。

以上